A 23 気候帯の異なる浄水場ろ過池に生息するユスリカ幼虫数の季節変化

○ 平林公男・中本信忠(信州大・繊維・応生)・谷崎樹生(石垣島ウミガメ研究会)

Seasonal abundance of chironomid larvae in slow sand filter bed**Hirabayashi K., Nakamoto N. and Tanizaki S.**

緩速ろ過式浄水場は河川水をゆっくりとした早さで砂層を通過させ、飲料水を作る方式で、砂層表面に生物膜ができ、それが浄水に重要な役割を果たしている。ユスリカ類の幼虫にとって、浄水場のろ過池は、河川や湖沼などの自然の生息場所と比較して、極めて高い密度で生息可能なすみ場所の一つである。しかし、我が国においては、これまでに浄水場ろ過池のユスリカ類についての研究報告はほとんど無く、近年、Hirabayashi *et al.* (2001)が、ろ過池周辺におけるユスリカ成虫相を報告したものがあただけである。本研究では、内陸性気候帯にある上田市染屋浄水場と亜熱帯性気候帯にある石垣浄水場とで月1回、試料を採集し、砂層表面のユスリカ幼虫数を計測した。いずれのろ過池でも春は幼虫の生息密度が低く、夏に向けて密度が高くなった。また、石垣浄水場の方が、染屋浄水場に比べ、幼虫密度が 20,000 匹 / m² 以上に達するまでの期間が短く、これには水温が関係していることが示唆された。

A 24 ヌカカ科に関する残された諸問題

北岡茂男(柏崎市)

Several remaining problems on the Japanese Ceratopogonidae (Diptera)

Shigeo Kitaoka (Kashiwazaki City)

吸血性のハエ目昆虫で種類が極めて多いヌカカ科には、世界で125属、約6000種が記録されているにも拘わらず、わが国では Culicoides, Lasiohelea, Leptoconops 以外の諸属についての研究は、徳永(1972)以降、全く白紙状態に留まっている。

ヌカカ科の種数の約23%を占める Culicoides の代表的な人吸血種は、古く和名でヌカカと呼ばれ C. obsoletus と同定されていたが、それは北米の C. sanguisuga と考えられる種が優先するが、むしろ C. nupurius など近似種が混在する種群に対する総称名であると結論され、最終的な解明が待たれる。

Culicoides の種類に関して和田(1999)は 78種を挙げたが、その後 C. orientalis, C. hewitti, C. hasegawai, C. nupurius などが記録、或は新種が追加されたと共に、NEMURO、IWATE、ODA、OGASAWARA、EHIME などの 5未記載種も存在し、本属の種相の全容が明らかにされるためには更に多くの時間が必要である。